

安倍寺跡出土の鷲尾

1 はじめに

奈良県桜井市阿部に所在する安倍寺跡では、桜井市教育委員会および奈良県立橿原考古学研究所の調査で金堂・塔・回廊・石敷・石垣などが確認されており、造営年代は軒瓦の検討から7世紀中頃に推定されている¹⁾。このたび、大脇潔氏より安倍寺跡で出土したとされる鷲尾の紹介をうけた。本資料は井内古文化研究室に保管されていたもので、「630403安倍寺」の注記がある。詳細は不明だが、本格的な発掘調査が開始される以前に周辺で採集されたものとみられる。今回は、本資料と、これまで安倍寺跡で出土した鷲尾に関する報告と検討をおこなう（図25）。

2 安倍寺跡出土鷲尾の分類

A類（図26） 桜井市教育委員会の調査で2点が出土している。1点は伽藍西方を区画する石垣遺構付近で出土した胴部片である²⁾。外面に正段を削り出し、段幅は6～8cmで後方に広がる。胴部側面中ほどの破片とみられる。もう一点は、伽藍北方の安倍寺跡第20次調査地点で出土した鰭部片である³⁾。段幅6cm以上の正段を外面に削り出す。3～4cm程度の粘土紐を積み上げた後、外側に厚さ1.8cm程度の粘土板を貼り付けた上で正段の施文をおこなっている。いずれも外面は不定方向のケズリ、内面はケズリか粗いナデ調整。大粒の砂粒を含むやや粗い胎土を用い、焼成は堅緻で灰褐色を呈する。

橿原考古学研究所附属博物館所蔵資料 伽藍中枢部の調査で金堂西北隅から出土したもの⁴⁾。左側面縦帯部にあたり、縦帯は幅2.8cmの断面方形、胴部に幅9.7cmの正段を削り出す。縦帯上には胴部の段と一致しない、斜め方向の線刻があり、鰭部の段に由来する可能性がある。胎土や色調が酷似しており、A類と判断した。

B類（図27） 今回紹介をうけた資料。腹部をともなう左側面の胴部片である。胴部外面に段は認められず、胴部無文の鷲尾とみられる。外面には斜方向のハケメが残る。腹部と胴部の接合痕跡が明瞭であり、腹部と胴部（鰭部）で別々に粘土紐を積み上げて成形する「腹部接合式」

の手法を用いる⁵⁾。腹部は胴部に対してほぼ直角に取り付き、腹部内外面に縦方向の粗いハケメを残す。胴部は前方内側に向かって緩やかにカーブしており、全体的には、やや小ぶりの鷲尾になる可能性が高い。砂粒の少ない緻密な胎土を用いており、焼成はやや軟質で、灰白色を呈する。

A類のように粘土板を外側に貼り足す手法は藤原京右京十二条二坊例（田中廃寺か）に類例があり、粘土紐を積み上げた外側に平行タタキを施した後、粘土を薄く貼り足している。一方、B類は胴部外面と腹部にハケメを残すのが特徴で、和田廃寺A類や飛鳥寺E類に類似の手法がみられる⁶⁾。

3 鷲尾の形態と評価

A類は胴部と鰭部外面に正段をもつ胴部有段鷲尾である。年代の根拠は無いが、段幅がやや広く、全体に厚手であること、縦帯が単純な削り出し方形突帯だが、やや幅広であることを踏まえると、いわゆる「唐様式」鷲尾が導入される以前、7世紀中葉以降の資料であろう。これは従来想定されている安倍寺跡の創建年代とも近い。一方、B類は小片で全形の復元は難しいが、胴部が無文であり、7世紀後半以前に遡らせるることは難しい。A類とは胎土や色調も含めて様相を異にしており、製作時期や使用堂塔は異なるものとみられる。A類は金堂西北隅で出土しており、中枢部で使用された可能性があるが、西面石垣周辺や、伽藍北方でも見つかっており、複数地点で用いられた可能性もある。また、A類は近い胎土や色調の瓦磚類が多数出土しているのに対し、B類のような胎土の瓦磚類は桜井市教育委員会の調査ではほとんど確認されていない⁷⁾。B類がその他の瓦磚類とは異なる場所から搬入されたことも十分想定しうるが、今後の調査の進展と資料の増加を待ちたい。

（道上祥武）

謝辞

桜井市教育委員会所蔵資料の見学に際し、丹羽恵二氏、森暢郎氏にご協力をいただきました。また、橿原考古学研究所附属博物館所蔵資料について、大脇潔氏に多くのご教示をいただきました。記して御礼申し上げます。

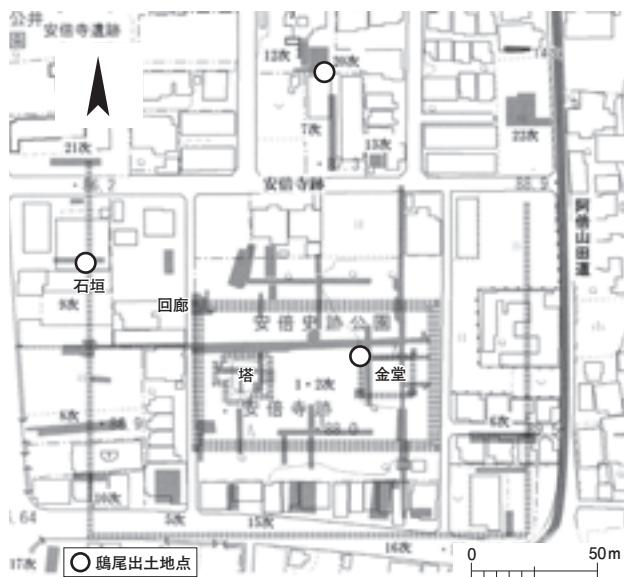


図25 鷂尾A類出土地点 (文献8図を改変 1:3000)



図26 鷂尾A類 (桜井市教育委員会所蔵)
(a : 胴部片、b・c : 鰐部片 (断面に層状の痕跡がみえる))

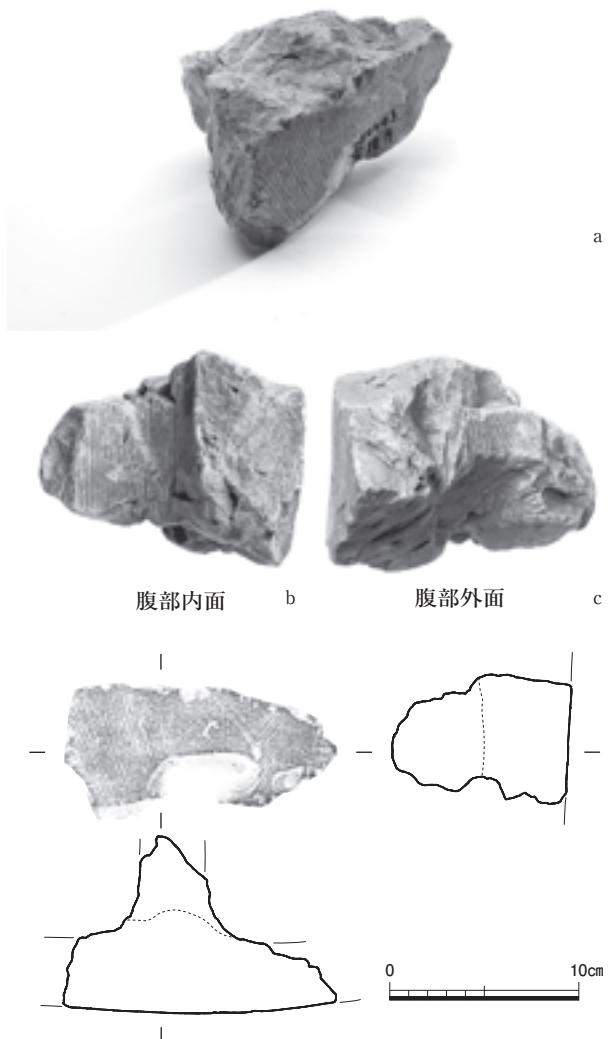


図27 鷂尾B類 (実測図は1:4)

註

- 1) 花谷浩「出土瓦をめぐる諸問題」『吉備池廃寺報告』193-219頁、2003。
- 2) 清水真一「国史跡・安倍寺の周辺地区発掘調査概要」『桜井市内埋蔵文化財1990年度発掘調査報告書』2、桜井市文化財協会、1-7頁、1991。
- 3) 木場佳子「安倍寺跡第20次発掘調査報告」『平成18年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会、57-92頁、2008。
- 4) 桜井市『安倍寺跡環境整備事業報告』1970。大脇潔『日本古代の鷂尾』飛鳥資料館、1980。胎土や色調の所見は大脇潔氏の観察所見を参考にしている。
- 5) 道上祥武・廣岡孝信・清野孝之・白石純「奈良県の鷂尾」『古代瓦研究会第20回シンポジウム 鷂尾・鬼瓦の展開 I -鷂尾- 発表要旨』奈文研、1-30頁、2020。
- 6) 類例については前掲5参照。
- 7) 調査当日、丹羽恵二氏にご教示いただいた。
- 8) 藤村裕美「安倍寺遺跡第18次調査」『平成30年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会、3-7頁、2019。